



床に座る生活が好きなご主人の希望もあって、家具は高さの低いものをチョイス。和のテイストが入っており、程よい和洋ミックスの空間になった

1の解決策

洋室を小上がり風の和室にして床下スペースも収納として活用

元々和室のない家でしたが、子どもと一緒に寝るスペースが欲しかったことや布団で寝たいご主人の希望もあり、和室を設置。床下収納や納戸もつくり、少ない収納をここでカバーしました。



普段はここに布団を敷いて、家族3人で寝ている。将来は夫妻の寝室として使い、2階に子ども部屋を作る予定

ガラスを使用した大きな吊り扉で個室空間に変身

アンティークのチェッカーガラスを使った吊り扉で、和室とリビングを仕切る。右は納戸の扉になっている。ガラス部分は開閉して光や風を取り入れられる

昼間は扉を全開にして、リビングとひとつづきのオープンスペースに。昼間は日光がよく入り、リフォーム前より明るい空間になった

アールの壁に珪藻土を塗って優しい印象に

開口部の壁は最初から各所が角を取ったアールの形状になっていた。珪藻土を塗ることで、リビング全体の印象が更に柔らかくなった

子どもの健康を考え自然素材を随所に取り入れて

元は絨毯敷きの部屋だったものを、無垢のチェリー材のフローリングにリフォーム。健康配慮はもちろん、風合いも気に入っている

畳の下も有効に使い収納の少ない家の悩みをカバー

畳敷き部分は全て床下収納。大容量で季節のものをしまっておける。取っ手の紐が付いているので、簡単に床下収納を開けることができる

3の解決策

2階部分は子どものためのオープン空間

長女が大きくなった時、子ども部屋をつくる予定の2階。今は何も置かずユーティリティに使っています。また、大きなクローゼットをつくり付け、衣類の収納として活用しています。

今はただの広い空間で、来客が泊まった時などに使っている。元は2つの部屋に仕切られていたのを、壁を取って一つにした

2階には全く収納がないので、大きなウォークインクローゼットを作ってもらった。細長いスペースなので、入り口は両端に2つ作ってある

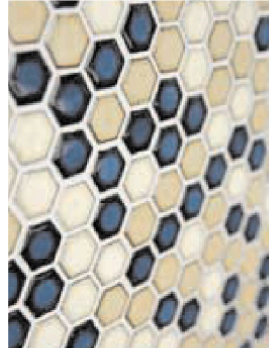


2の解決策

キッチンにL字型にしてコミュニケーションもしっかり

I型のキッチンをL字型に変更したことで、料理中でも横目でリビングの様子を見ることができるようになりました。奥さまが孤立せず、家族の会話しやすい形になっています。

勝手口からは菜園のある庭に通じていて、採れたての野菜も食卓に上る。デッキはコンクリートの上にパネルを敷きつめ、DIYでつくりあげた



上/コンパクトながらミールレの食洗機もつけ、機能は充分。コンロのすぐ右がリビングなので、娘の様子も見られて安心。下/キッチンの壁は六角形のタイルを組み合わせて、昭和レトロな雰囲気。名古屋タイルのものを使用



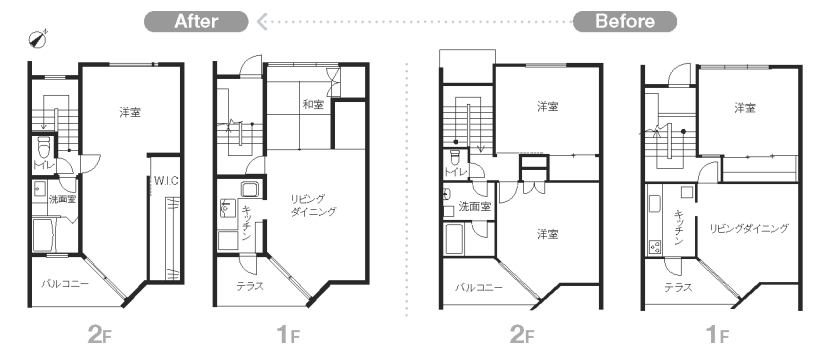
築36年のモダンな佇まいのテラスハウス。年数は経っていたものの、この建物が気に入ったSさん夫婦はリフォームして住むことに決めました。最初は2階にある水まわりを1階に移し、キッチンも別の場所にしたと考えましたが、構造上難しく断念。その代わり間取りは大きく変えず、部屋の壁を取り払って圧迫感のない空間づくりを優先させました。さらに、収納スペースを増やし、キッチンの形にもこだわること

で、元の形をより住みやすく変更。床や壁には珪藻土や木をふんだんに使

使い、健康にも配慮しました。こだわったのは1階で作った小上がり風の和室です。1畳の生活には愛着があったし、和室はどうしても欲しかったんです」と奥さま。扉で仕切れるようにしている空間は、長女の昼寝場所や家族の寝室として欠かせないものとなっています。リビングのインテリアも丸いちゃぶ台風の机や、飛騨家具のロータイプのソファなどをセレクトし、和室とも違和感のないコーディネートでまとめました。座ってくつろげる家は快適で、毎日家族の団らんを楽しんでいます。

子どもと寝転がれる和室をしつらえ古いテラスハウスを和モダンに改装

神奈川・Sさん



家族構成/ご主人(30代)、奥さま(30代)、長女(2歳)
床面積/1F 39.3㎡(11.89坪)
2F 39.3㎡(11.89坪)
合計 78.6㎡(23.77坪)
設計/増沢建築設計事務所
施工/西松建設

リフォーム前の不満

- 1 布団を敷ける量がない
- 2 キッチンが孤立している
- 3 子ども部屋がない